一般社団法人 I.C.E. 御中

I.C.E. 様関連サイト

I.C.E. 公式ウェブサイト
ウェブアクセシビリティチェック実施報告書

対象規格および適合レベル：WCAG 2.1 適合レベル AA

調査期間：2024 年 8 月 19 日～2024 年 9 月 7 日

報告書作成日：2024 年 9 月 24 日

株式会社コンセント

■アクセシビリティチェック対象 URL 一覧

別資料：2024-ice-wcag21-sc-check-2408.xlsx に基づく

■アクセシビリティチェック担当者による総評

評価結果を元にしたサイト全体の状態

WCAG 2.1 レベル A 一部準拠
※本報告書における「準拠」という表記は、情報通信アクセス協議会のウェブアクセシビリティ基盤委員会による「ウェブコンテンツの JIS X 8341-3:2016 対応度表記ガイドライン 2021 年 4 月版」で定められた表記によるものです。

今回の評価では、WCAG 2.1 レベル A 及びレベル AA の範囲で実施していますが、レベル A、レベル AA いずれの範囲内においても複数の達成基準に関連する課題が確認されました。
レベル AA までを範囲として確認を行なっていますが、レベル A の達成基準において課題が確認されているため、「レベル A 一部準拠」という評価結果となります。
（レベル AA 一部準拠であれば、レベル A の達成基準を全て満たし、レベル AA の達成基準において課題が確認された状態を示すものとなります。）

評価対象ページ全体を通して複数のアクセシビリティ上の課題が生じている一方で、サイト自体はしっかりと作られている印象を持ちました。課題指摘は特定の達成基準に関連するものとなり、課題内容についても傾向が掴みやすく、一貫性が見受けられます。
サイト全体の作りがしっかりとしていない場合や運用時においてルールが守られていない状況では、各ページでまちまちの達成基準に関連した課題が生じていたり、課題内容もページによって類似性の低いものになることが多いです。そのような状況では、評価対象ページ全体としても、数多くの達成基準に関連した課題が生じる状態となります。
以上のことから、サイトのベースがしっかりと構築されており、ルールを守りながら運用されている状態であると判断しています。

評価結果詳細資料における課題指摘の分類について

評価結果詳細資料にて課題として指摘した内容には、達成基準を満たしていないと判断し改善を必須とするものから、達成基準を満たしているが改善の余地があるものまで、課題内容と利用者影響については幅が存在します。
各達成基準は、適合レベル（レベル A、およびレベル AA）によって分類されています。適合レベル A に分類される課題は、改善できない場合には情報の取得や操作そのものができなくなるなど利用者への影響が大きいものとなり、アクセシビリティを確保する上での最低限の要求事項となります。評価シートにおいても、各課題には適合レベルについても記載しているため、段階的に改善を進める場合においての優先順位を決める上での参考としてください。
また、明示的な課題ではないが改善の余地がある項目については、評価シート内において「推奨」と表記しています。

評価対象ページ全体に共通する課題の傾向

ヘッダ内に含まれるナビゲーション部分やページトップリンクなど、評価対象の全ページで共通利用されている領域内において複数の課題が含まれていました。
また、モーダルダイアログやアコーディオン UI など、ページごとで利用状況は変わるもののサイト全体で共通して利用していると見受けられる箇所での課題や、サイト全体で利用しているカラー（キーカラーとなる青色や、カテゴリ分類で利用している色など）を用いた箇所においてもコントラストが不足するといった課題が生じています。
（詳細については、評価結果詳細における「各ページ共通課題」を参照ください）

対象箇所により課題内容は異なりますが、主には WCAG 2.1 の 4 つの原則では「1. 知覚可能」「2. 操作可能」に関連した課題が多く見受けられます。2 つの原則の中でも「1.4 判別可能」「2.1 キーボード操作可能」「2.4 ナビゲーション可能」のガイドラインに区分される達成基準の課題が比較的多く見受けられ、視認しずらい・読みにくいといった課題や、キーボードを用いて利用しずらい、コンテンツを探しにくいといった利用者への影響が生じていると考えられます。

共通課題の改善については、各課題への対応方法を決定し修正を行うことで、サイト内で生じている多くの課題箇所の改善が可能となります。サイト全体のルールに関連するものも含まれるため、内容によっては検討に時間を要するかもしれませんが、共通課題については優先度を上げて対応をいただくことでサイト内の多くの課題を解消することへと繋がります。

個々のページで確認された課題の傾向

各ページ固有の課題の全体的な傾向としては、画像の代替テキストや情報の構造化に関連した課題が多い状態でした。

その他、評価対象した各ページを次の 3 つに区分した場合の課題傾向としては、以下のようなものとなります。

- トップページ（ユニークページ）： No.01
  - トップページ固有の表現に起因する課題が見つかっていることもあり、トップページでの課題指摘数は比較的多いものです。
  - 確認された課題の多くは、カルーセル UI に関連するものとなっています。
- 固定ページ（ナビゲーション掲載ページ）：No.02、No.04、No.05、No.07～No.12、No.19、No.20
  - 固定ページにおける各ページ固有の課題数は比較的少ない傾向にありました。
    主には情報構造やコントラストに関連するものです。
  - 固定ページ内で共通利用されているアコーディオンやページャーといった UI を含むページ場合は、課題指摘が多くなります。
- 記事ページ： No.03、No.06、No.13～No.18
  - 掲載コンテンツに準じた課題（掲載画像の代替テキストや、画像内での表現方法、情報の構造化）が多く確認されました。
    これは、記事系コンテンツに多くみられる一般的な傾向とも言えます。
  - 他、記事ページで共通利用されているモーダル UI にも課題が確認されています。

アコーディオンやページャー、モーダル UI といった複数の課題が含まれる共通パーツや、サイト全体に適用している色ルールに関する課題を除外した場合、個々のページ固有の課題数は決して多くはありませんが、いずれのページにおいても数点の課題が見つかっています。
見つかった課題は主には「1. 知覚可能」の原則に関連するものが多く、情報を取得できない、情報構造を把握しにくい（あるいは誤解する可能性がある）、コンテンツを閲覧しずらいといった、内容理解を難しくする要因となりうるものとなります。

各ページ固有の課題の改善については、複数ページで利用される共通パーツにおける調整の他、各ページのコンテンツ内容に準じた調整を 1 ページごとに実施していく必要があります。

主要なエラーの解説（サイト共通の課題を中心に一部を紹介）

● サイト内のナビゲーションが把握しずらい

各ページにはグローバルナビゲーションはぱんくず、フッタのユーティリティリンク、ページャーといった様々ナビゲーションが存在しますが、いくつかのナビゲーションでは nav 要素が用いられていない状態でした。また、各ページに複数のナビゲーションが含まれる場合は、ナビゲーションを識別できるように aria-label 属性を用いて nav 要素に対してラベルを提供してください。
ページ内の情報を視覚以外の方法で閲覧している利用者（スクリーンリーダー利用者）が、ランドマークを手掛かりにナビゲーションを探す際の使いやすさが改善されます。

この課題は、「達成基準 1.3.1 情報及び関係性（WCAG 2.0 レベル A）」に関連します。

ほぼ全てのページに共通して掲載されるヘッダ内のグローバルナビゲーションと、ぱんくず、フッタ内のユーティリティリンク。
ぱんくずでは nav 要素が用いられていない他、各ナビゲーションにはラベルが付与されていないために、各ナビゲーションの識別がしずらい状態となっている。

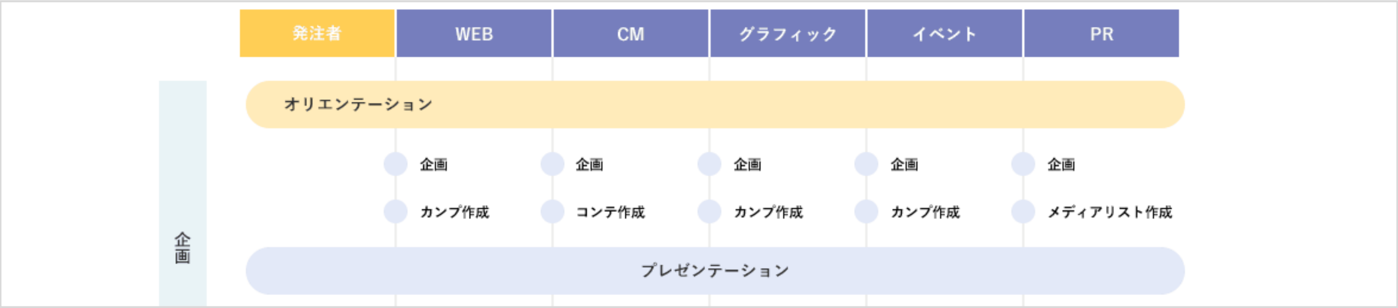
● 文字のコントラストが確保されていない

ヘッダ内などに掲載されるボタン型リンクやリンクテキスト、一部の強調表現、記事ページのカテゴリを示すタグ箇所など、テキスト表示箇所においてコントラストが十分に確保されていない（文字色と背景色のコントラスト比が 4.5 : 1 未満となっている）箇所が散見されました。また、ページャーや記事カテゴリメニューのリンク箇所では、hover 表示時のみでコントラストが不足する状態となっていました。通常時だけではなく hover や focus などの操作時の変化においてもコントラストが不足することがないようにしてください。
また、コントラストを確保する対象は、デバイス文字箇所だけではなく、画像内の文字箇所も含まれます。
コントラストが確保されていない場合、色の識別がしずらいロービジョンの利用者や、晴れた日の屋外といった強い環境光の下での閲覧時において、対象の文字が読めない、読みにくいと感じる可能性があります。

例えば、サイト全体に共通するデザインルール検討時に文字色と背景色の情報をまとめ、コントラストが確保可能な組み合わせを把握することで、意図しないコントラストの不足箇所などを防ぐことができます。

この課題は、「達成基準 1.4.3 コントラスト (最低限)（WCAG 2.0 レベル AA）」に関連します。

文字のコントラストが不足しているヘッダ内のボタン型リンク。（青背景と白文字で 3.57 : 1 のコントラスト比となる ）

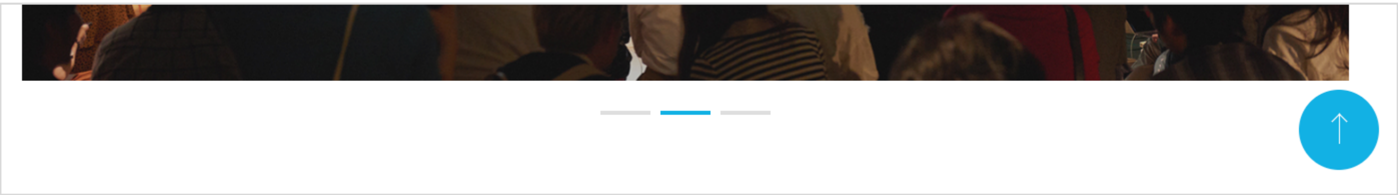


画像内文字のコントラストが不足している例。上部にある「発注者」や「WEB」などの箇所で 4.5 : 1 未満のコントラスト比となっている。

● **非テキスト（グラフィカルオブジェクトや UI 箇所）コントラストが確保されていない**

テキストだけではなく、アイコンなどといったグラフィカルオブジェクトもコントラストを確保する対象となります。
確保しなければならないコントラスト比は、オブジェクトと背景色とのコントラスト比で 3.0 : 1 以上となり、テキストに対する要求よりも少し低いものとなります。
例えば、各ページの右下に表示されるページトップリンクや、トップページのカルーセルのインジケータのように、周囲にテキストがなくオブジェクトを視認できなければ情報取得や機能の利用ができなくなるような箇所では、オブジェクトのコントラストの確保が必要な箇所となります。
例示の 2 箇所はいずれもオブジェクトのコントラストが確保されていない箇所となります。
また、アイコンが UI の状態を示している場合（アコーディオンの開閉アイコンなど）では、周囲にテキストがあってもオブジェクトが把握できなければ UI の状態が判別できなくなるため、アイコンと背景のコントラストの確保が必要な箇所となります。

この課題は、「達成基準 1.4.11 非テキストのコントラスト（WCAG 2.1 レベル AA）」に関連します。



UI やグラフィカルオブジェクトのコントラストが不足している例。右端のページトップリンクや、中央のカルーセルのインジケータ箇所では、3.0 : 1 未満のコントラスト比となっている。

UI の状態を判断するのに必要箇所（+部分）のコントラストが不足している例。 +部分を視認できない状態だと、カテゴリや年別の示す部分が、開閉 UI なのかリンクなのかを見た目から判断することが難しくなる。

● **コンテンツが見切れてしまう**

スモールデザイン適用時のヘッダのハンバーガーメニューの内容は、ウィンドウのスクロールと連動していない状態となっています。そのため、ウィンドウの高さが十分に確保されていない状況下や、ハンバーガーメニュー内のアコーディオンを開いた状況下では、メニューの下部が見切れやすい状態となります。
また、直接的には達成基準の要求には該当しないのですが、ラージデザインが適用された状況下で 800px～1100px 程度のウィンドウ

幅でコンテンツを閲覧すると、画面の右側に掲載される情報が見切れてしまいます。
こうしたコンテンツの見切れが生じやすい状況下では、ロービジョンの利用者が文字を読みやすくするためにコンテンツを拡大（ズーム機能を利用した状態）した際に、一部の機能が利用できない、情報が正しく取得できない、などの使いにくさへと繋がる可能性があります。

1280px のウィンドウ幅での表示時に、コンテンツを 400％ズームした状態（ = 320px 幅で閲覧している状態）において、コンテンツの見切れや重なることが内容に注意してデザインを行う必要があります。
また、コンテンツの見切れや重なりの回避と合わせて、文章を読むために縦方向だけではなく、横方向へのスクロールも必要とする状況を作らないようにしてください。
基本的には、320px 幅までを想定したレスポンシブデザインを用い、横スクロールバーを表示させないことを目指すことで、達成基準が要求する状態を作ることができます。

この課題は、「達成基準 1.4.10 リフロー（WCAG 2.1 レベル AA）」に関連します。

スモールデザイン時にハンバーガーメニューの項目を全て開いた状態。サポートキットの中に含まれる項目がウィンドウ内に収まっていないが、画面をスクロールしてもメニューはスクロールされず、項目が見切れてしまっている。。

● **グローバルナビに関連する課題**

ラージデザインのグローバルナビゲーション箇所には、以下のような課題が含まれています。

- グローバルナビのサブメニュー項目は、ポインタのホバー操作のみで開くことができ、キーボード操作のみではサブメニューを開くことができない。
- キーボードの tab キーを用いて移動している際、表示されていないサブメニュー項目がキーボードフォーカスを受け取るために、画面内のどこを操作しているのかが分からなくなってしまう。
- グローバルナビのサブメニュー項目をポインタのホバー操作で開いた際、ポインタを移動することなくサブメニューを非表示化する仕組みが提供されていない。

1 つ目と 2 つ目の課題は、画面を視認しながらキーボードのみを利用して閲覧するような状況下での使いにくさを助長するものとなります。
キーボードのみを利用した操作は、画面を視認できないスクリーンリーダの利用者のみが行うものではありません。
手に震えがありマウスを使うことが難しいと感じる利用者や、画面上のポインタを視認しずらいロービジョンの利用者などは、画面を視認しながらもキーボードのみで操作を行う可能性があります。
キーボードのみを用いて全ての機能を利用できるようにするとともに、キーボードで操作している箇所（tab キーで移動した箇所）を見失うことがないように、画面内の隠れた要素がフォーカスを受け取ることがないようにしてください。またフォーカスを受け取った箇所の視覚的な

変化を隠さないようにしてください。（ブラウザ標準で提供されているフォーカスリングを CSS の outline プロパティを利用して非表示化することを可能な限り避けてください）

3 つ目の課題は、ポインタ操作により意図せずサブメニューが表示され他のコンテンツが隠されてしまうような状況下で、ポインタを動かすことなくサブメニューを非表示化することでコンテンツを閲覧しやすくすることを目指すものとなります。
この課題に対応するためには、ESC キーなどの押下によりサブメニューを非表示化する仕組みを JS などを用いて開発する、といった方法がありますが、先に挙げたキーボードでの操作との両立を図るためにも、ポインタホバーやキーボードフォーカスをトリガーとしたサブメニューの表示を取りやめ、対象箇所の押下によってサブメニューを表示するように設計し直すのが良いと考えます。

この課題は、以下の達成基準に関連します。
「達成基準 2.1.1 キーボード（WCAG 2.0 レベル A）」
「達成基準 2.4.7 フォーカスの可視化（WCAG 2.0 レベル AA）」
「達成基準 1.4.13 ホバー又はフォーカスで表示されるコンテンツ（WCAG 2.1 レベル AA）」

ラージデザイン適用時のヘッダのグローバルナビゲーション。（「I.C.E.について」項目の追加メニューを開いている。
マウスポインタのホバーのみでサブメニューが開くことが可能となり、キーボード操作のみでは追加メニューを開くことができない。

● ハンバーガーメニューに関する課題

スモールデザインのハンバーガーメニュー箇所には、以下のような課題が含まれています。

- ハンバーガーメニューボタン箇所に対して代替テキストが設定されておらず、画面を視認できない状態では何のための操作箇所なのかを理解することができない。
- ハンバーガーメニューボタンを押下後に追加で表示されるメニュー内容は、メニューボタン箇所よりも手前に表示される。
  メニューボタンを押下後にハンバーガーメニュー内へと移動するためには、コンテンツを戻る操作を行う必要がある。そのため、メニューボタンを押下してもメニューが追加されていることに気づかない可能性がある。
- ハンバーガーメニュー内のアコーディオンはキーボードのみで開閉することができない。

これらの課題は、主にはキーボードでの操作時を困難とするものとなります。
特に画面を視認できないスクリーンリーダーの利用者にとっては、1 つ目の課題と 2 つ目の課題は重要となり、ハンバーガーメニューをデザインの意図通りに扱うことが非常に難しい状況と考えられます。

モバイルデザインの適用時においてもキーボードによる操作への対応は必要なものとなります。
モバイルデバイスに対して bluetooth 接続をする状況を想定する必要がある他、キーボードの操作を確立することで、さまざまな支援技術やキーボード入力をエミュレートする入力デバイスへの対応を確立しやすくなります。

この課題は、以下の達成基準に関連します。

「達成基準 1.1.1 非テキストコンテンツ（WCAG 2.0 レベル A）」
「達成基準 2.1.1 キーボード（WCAG 2.0 レベル A）」
「達成基準 2.4.3 フォーカス順序（WCAG 2.0 レベル A）」

スモールデザイン適用時のハンバーガーメニューの表示。右上にある閉じるアイコン（開くアイコンも同様）には代替テキスト設定されていないため、何のための操作箇所なのかを把握することができない。また、メニュー内のアコーディオン箇所はキーボードで操作することができない。

● **サイト内を巡回する複数の手段が提供されていない**

サイトに設定されているナビゲーション以外のほか、サイト内を巡回する手段が提供されていませんでした。
利用者が、自身のニーズに合った方法を用いてサイト内のコンテンツを探索できるように、サイトマップコンテンツやサイト内検索機能の提供が必要となります。

この課題は、「達成基準 2.4.5 複数の手段（レベル AA）」に関連します。

● **その他：見出し要素の利用**

その他、見出し要素の利用について、「ページの最上位見出しに対して h1 要素を用いていない」「見出しレベルが順序立てられておらず、レベルがスキップされて利用されているいる」といった、改善することが好ましい箇所を含むページが多くありました。
本評価では、上記のような見出しレベルを順序立てて用いられていない箇所に対する指摘は「推奨」として扱い、修正を必須とするものとして扱っていませんが、これらの課題は達成基準 1.3.1 に関連する課題として解釈される場合もあります。
各ページでの見出し箇所については、ページの主題となる見出し箇所に対しては h1 要素を用い、また、コンテンツ構造にあわせて見出しレベルが飛ばされない（h2 要素の後に h4 要素を用いることなどを避ける）ことを心がけていただけると良いでしょう。

これは、例えば h1 が存在しない場合、スクリーンリーダーの利用者がそのページの見出しをナビゲートするとき、実際にはページには存在しない h1 要素を、利用者が誤って飛ばしてしまったのではないかと誤解する恐れがあることから避ける方がよいとされています。

以上

※本資料での達成基準項目の名称については、ウェブアクセシビリティ基盤委員会 (WAIC)の翻訳資料を元にしています。

※参照元文書は、W3C エディターズドラフト Understanding WCAG 2.1 の 2020 年 12 月 2 日版を、ウェブアクセシビリティ基盤委員会 (WAIC) が翻訳して公開しているものです。